

クラス番号	915	担当教員名	高山 京子
テーマ	当事者の立場（“立つ瀬”）を理解する		

ゼミナール概要

キーワード；ソーシャルワーク、精神保健福祉、障がい者福祉、当事者

【目的】

いわゆる「当事者」とは何をいうのでしょうか。辞書でその言葉を調べると、「その事に直接関係のある人」とあります（三省堂 大辞林）。では、「その事」とは一体何を示すのでしょうか。

社会福祉の実践現場では、この「当事者」という言葉をよく聞き、使います。ここでいう「当事者」とは、障がいや病い（病気）、という「困難さ」「生きづらさ」を抱えた、あるいは、そのことに直面している人たちのことを言っている場合が多いです。その立場の人たちはどのようなことを思い、何を考え、今を生活しているのでしょうか。社会福祉士、精神保健福祉士を目指し、ソーシャルワーカーとしての活動を考えている皆さんには、ぜひとも「当事者」の立場が分かる人であってほしい、と思います。皆さんがそういう人「財」となり得ることを目指し学びます。

【内容と方法】

- ① 当事者やその家族が記述したり、直接述べたり（口述）した記録などに触れます。皆さんに著書や作品を探してもらうことも学びの一つと考えます。皆さんが苦労して探し当てた作品をゼミ全体で共有します。もちろん教員からヒントも沢山差し上げます。
- ② 文献等で学んだことを基礎学として、次には実際に当事者団体を訪ねましょう。団体探しも皆さんに力を発揮してもらおうと考えています。こちらもヒントを差し上げます。当事者や家族へご意見を伺う時に、何を注意したらよいか、どんな質問をしたらよいか、など事前に入念に検討をします。検討にあたり、ロールプレイも活用し、より実感しやすい工夫をします。
- ③ 当事者が出会う、福祉専門職以外の専門職の意見にも触れてみます。文献、実際にお会いするなどして、福祉専門職以外の専門職が当事者をどのように捉えているのか、理解します。
- ④ 学びを報告会等でまとめ、共有します。

授業計画：

前期は主に文献研究とグループ討論、後期にはフィールドワークとまとめ、学習成果の発表を行う予定です。

グループで話し合い、助け合いながら学びます。そのことを通して、チームワークの必要についても実感しましょう。

担当教員からのメッセージ

私は20数年、縁あって精神障がい当事者や家族の支援活動に携わってきました。精神科病院のソーシャルワーカーを皮切りに、精神科クリニックのソーシャルワーカー、私的実践を経て、社会福祉法人の立ち上げ、日中活動の事業所、相談支援事業所の事業運営に至るソーシャルワークの多くを経験させてもらって現在の私があります。その経緯の中で精神障がい者といわれる「当事者」とその家族が抱えている課題の大きさに対し、まずは彼らの立場を真摯に受け止めようとするのが、何よりも大切な支援であることを実感してきました。私が長年の実践の中で育んできた、“立つ瀬を守る”という造語の真意を、若く希望ある皆さんに感じて頂き、できれば共感してもらえるようなゼミナールを目指したい、と思っています。初めてのゼミナール担当です。一緒に学べてよかった、と思えるゼミナールにしていきたいです。